

《担当者名》鈴木 幸雄 (非) suzukiy@do-bunkyo.ac.jp

【概要】

家族のあり方が多様化し変貌する過程で様々な家族問題が派生してきた。本講義では個人にとっての家族を理解するために、家族研究の基礎理論や基礎データをもとに現代社会の家族についてジェンダーの視点から考える。

【学修目標】

専門職としての様々な家族への援助を考えるために、家族内の問題を社会的要因との関連で理解することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 家族とは何か(1)	受講上の諸注意、 家族のイメージ、 家族定義の困難性	鈴木
2	家族とは何か(2)	家族関係学の射程と限界	鈴木
3	家族規範の成立と変容(1)	作られる家族、 近代家族の成立	鈴木
4	家族規範の成立と変容(2)	家族の規範	鈴木
5	ジェンダー論と家族関係(1)	ジェンダーの概念	鈴木
6	ジェンダー論と家族関係(2)	ジェンダー論と家族関係	鈴木
7	結婚と離婚の意味(1)	結婚の意味の変化と社会の変化	鈴木
8	結婚と離婚の意味(2)	離婚の意味と社会の変化	鈴木
9	DVと夫婦関係(1)	DV問題の出現、 DVの社会問題化	鈴木
10	DVと夫婦関係(2)	DVと夫婦の関係、 DV防止法の成立	鈴木
11	子育て規範と親子関係(1)	親の影響力とは、 子どもの虐待	鈴木
12	子育て規範と親子関係(2)	親になるという経験、 親と子という関係性	鈴木
13	さまざまな「家族」のかたち(1)	家族と社会システム	鈴木
14	さまざまな「家族」のかたち(2)	「家族」からの解放	鈴木
15	まとめ	レポート課題等の作成	鈴木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

提出課題等100%

【教科書】

テキストは使用しない。適宜、講義用プリント、資料等を配付する。

【参考書】

土屋葉編『これからの家族関係学』角川書店、2008

袖井孝子『変わる家族変わらない絆』ミネルヴァ書房、2005

上野千鶴子『家父長制と資本制 マルクス主義フェミニズムの地平』岩波書店、2009

【学修の準備】

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1、3、5